

障害者虐待の記事を読んで ～職員の見解・感想～

11月27日（土）の毎日新聞朝刊トップから同日夜刊三面記事トップ、翌28日朝刊トップ、29日朝刊三面記事トップと相次いで、知的障害者入所更生施設での虐待事件が掲載されました。「サンガーデン鞍手」と同種別の施設でしかも近隣の施設においてこのような事件が発生したことは、大変残念でなりません。いうまでもなく、知的障害者入所更生施設の社会的使命は、知的障害者の生活と権利を守ることにあります。私達は、この事件を「対岸の火事」と、他人事としてとらえるのではなく、私達自身の姿勢について振り返ると共に、これからのわが国の知的障害者入所施設においてこのような事態が発生しないようにするにはどうすべきか、現場に携わる者として考えていく必要があると思います。

そこで、当法人の知的障害者福祉に携わる全スタッフに職員研修の一環として、記事についての感想文を書いてもらいましたので、ご紹介したいと思います。これからの施設のあり方について、多くの方々と考えていきたいと思っています。

総合施設長／長谷川 正人

<目 次>

1	カンファレンスにより、虐待が発生しない施設機能のシステム作りを！	施設長	福原
2	選ぶとしても選ぶ対象がないといった構造的な問題が大きいのでは？	事務長	長谷川
3	施設側とスタッフ同士の協力による「ゆとり」が大切	施設長	豊田
4	行動規範を常に頭の中に入れながら関わりたい	施設長	小柳
5	施設において、スーパーバイザーが必要であると思う	センター長	丹下
6	障害者を正しく理解し、接し方などの技術を高めるための勉強が大切	主任支援員	参川
7	相手を十分に理解する努力が必要	看護師	倭
8	「慣れ」という麻痺した感覚ほど怖いものはない	栄養士	平山
9	重い障害でも理解し、受容していくことが第一の基本	栄養士	森川
10	施設全体で十分な支援体制がとれることも重要な課題	コーディネーター	井手口
11	虐待の背景にもスポットを当て、しっかりと受けとめる必要がある	ジョブコーチ	舟津
12	大変気の毒なのは、お客様はどちらか分からないという悲しい事実	就業支援員	松尾
13	ひとりのおとなとして接していかななくてはならないと思います	事務員	幸田
14	施設の窮状を聞き対策を一緒に考える機関は存在しなかったのか	支援員	花田
15	当施設で考えると、まずあり得ない話だろう	支援員	戸次
16	勘違いしてはならない。障害者は弱者ではなく、同じ人間である	支援員	菅野
17	大切なのは、いかに利用者が過ごしやすい環境を作るかを考えていくこと	支援員	宗和
18	背景に、職員が利用者を見下す意識や雰囲気少なからずあったのでは	支援員	吉田

19	コミュニケーションのとりづらい利用者は守っていかなければならない	支援員	中益
20	明日も来たいと思ってもらえるよう支援しよう	支援員	穴井
21	利用者であり、お客様である人に平気で虐待することは許されない	支援員	友廣
22	”仲の良さ”で注意しあえなかったことは、私達も気をつけなければ	支援員	山本
23	障害者に対して、社会の目がまだまだ冷たいのをいろんな場所で感じる	支援員	佐藤
24	本人の意思をしっかりと受けとめ、受容することが大切ではないか	支援員	天野
25	しゃべれない人が対象というのは、どうしても許されなく心が痛い	支援員	安永
26	施設は、本人が安心して生活でき、家族も安心して預けられる場であるべき	支援員	成重
27	当施設でも、障害者との関わり方について、考える必要があるのでは	支援員	井上
28	施設全体で利用者の立場に立って支援を行うことに取り組んでいかねば	支援員	石津
29	保護者の方達の思いを逆手に取っての今回の事件は許すことができない	支援員	浦
30	世間の施設に対する見方も厳しくなり、福祉予算の削減につながれば…	支援員	小山
31	スタッフ自ら信頼関係を断つと、利用者自身のトラウマにつながる	支援員	万田
32	外部の第三者評価の導入により、施設にプラスになる運営を	支援員	今村
33	利用者の大事な命と人権は現場に携わる者がしっかり守っていく義務がある	支援員	安武
34	社会の中で弱い立場の障害者を守り、その生活を手助けするのが私達の仕事	支援員	許斐
35	社会がもっと障害を理解し受け入れていかなければならないと思う	支援員	渡部
36	毎日の所員さんとの生活の中で、職員は所員さんを暖かく見守っていく存在	支援員	中山
37	一体、何のために施設があるのか？何のために福祉があるのか？	支援員	新次
38	利用者の気持ちになれば、自ずと仲良くなり、理解し合えるようになる	宿直専門員	前田
39	今後は、療育面での専門的な知識を身につけて仕事をさせていただきたい	宿直専門員	佐々木
40	せっかく楽しい生活ができる場所に来たのに、驚いているでしょう	宿直専門員	藤澤
41	利用者を助けるべき立場なのに、決して許される行為ではない	宿直専門員	葛原
42	話せないがゆえのストレスを少しでも緩和できればと思う	介助員	渡辺
43	危険なとき、パニックがあったときこそ、介助を必要とされる方々なのに	介助員	清水
44	今も、向こうの方から、”おばちゃん”と呼ぶ声が聞こえるようで楽しみ	介助員	天野
45	コミュニケーションが全く取られていない恐ろしい状況	介助員	小林
46	無抵抗なだけに絶対に虐待などあってはならないこと	介助員	中村
47	施設は、障害者の人たちを保護し基本的な生活習慣を身につける場所	調理員	津野
48	重度の障害者の行き場のなさを改めて考えさせられた	調理員	清永
49	障害者と接するには根気と愛情が必要	調理員	塩川
50	施設は、職員や家族ではなく障害を持った人たちのための存在	調理員	安永
51	どうして専門的に勉強してきた人たちが…	調理員	神谷
52	障害者と関わる職員や家族の方は「大変」だと思います。が…	調理員	古田
53	忙しさのあまり、心の余裕がなくなってしまったのでしょうか	調理員	森安
54	この仕事に就く以上、責任を持って自覚するべき	運転手	千手
55	「面倒を見てやっている」という気持ちのおごりが虐待や暴力につながる	運転手	河島
56	「ちょっと待て」と勇気のある人がいなかったことは残念	運転手	高宮
57	何事にもゆとりの気持ち、寛大さが必要	運転手	三谷

1 カンファレンスにより、虐待が発生しない施設機能のシステム作りを！（施設長 福原）

虐待を問題にするとき、通常は、福祉に携わる個人の意識の問題として、「モラルや道徳、人権意識の高さ」を問うことが多い。確かに、「個人の意識」が本質の問題ではあろうが、あえて違う角度から意見を述べたい。虐待が悪いということは、社会人なら誰もが当然承知のことである。悪いと認識していながらも、親の子どもに対する虐待、老人の介護現場での虐待、障害者への虐待、つまり、「弱い者への攻撃」が繰り返されていることは、マスコミから大きく取り沙汰される今でも後を絶たない現実がある。戦争や紛争を見ても、どんなに良識を持っているつもりでも、ストレスバランスを崩してしまうと、誰もが、「弱い者への攻撃」に走る可能性がある。だから、「人権意識」や「道徳知識」のみで虐待が無くなるということではないということも事実である。そこで個人として自制が働かないことを抑制するに必要なものが集団の力である。「虐待は許さない」という集団の目があってこそ効果を得る。そこで、「個人の質」ではなく、「施設の機能」に着目する必要がある。記事の中で、「この施設に自浄作用はない」、「職員同士ナアナアになって注意できる雰囲気になかった」、「療育面での専門的な知識を身につけない限り、過ちは繰り返される」という記述がある。ゆたかを振り返ってみて、殴る、蹴るのような極端なものは無いにしろ、人権侵害に関わるような事柄で、果たしてどこまで自浄機能があるか、見た者が注意できる雰囲気（環境）であるのか、対処のためとしながら、短絡的な行為に至っていないか、…考えさせられる部分が少なからずある。私自身の人権に関わる自己評価として、悪ふざけや行き過ぎをその場で対処せずに放置していないか。いずれも、私の中では、「そこまで出来ていない」反省すべきことがある。これも虐待に繋がる延長線上のことであり、このような問題でも放っておくと、施設雰囲気のナアナアが虐待を許してしまう環境を作り上げていく恐ろしさがある。虐待の無い、良い施設では、カンファレンスが常に行われる。病院やホームヘルプステーションでも同様に言えることだ。問題をチームで解決していく理由は2つある。個人の意識には個人差があり、同じ事柄でも、問題のとらえ方が様々だから全員が問題に対する構えを意思統一するために必要になるからである。そのカンファレンスによる虐待回避の効能は、個人の判断では腕を縛り拘束する他はないという思いがあっても、チーム会議では腕を縛る決議結果にはなりにくい。集団で話す中には、より道徳的規範に照らして解決を導き出す働きを持つものである。もう一つの理由は、その人一人の問題ではなく、みんなの問題として共有することで、心理的負担を軽くできる。虐待回避の効能は、みんなで決めたことを代表で試しているという余裕と、会議された方法を試し、結果を報告しなければいけない、常に自分の行いがどういう結果をもたらしたかをメンバーにフィードバックしなければいけないところに自分の軽はずみな行動を自制する力を持つ。何よりも優れているところは、カンファレンスチームの結束は、人が「孤立化」せず、組織の一員としての仲間意識をもたらし、集団の中で安定して存在できる基盤を作る。そのことによりストレスバランスが保たれる状態であることができる。虐待が起きる施設は、個人の資質であること以外に、その施設の環境、例えば、施設の方針からの個人への負担、施設への不満の有無などが、ストレスバランスを保てない要因でないかを吟味しなければならぬが、それでも基盤は、「孤立させない組織作り」（チームメイク）という視点を持つことが大切だと思う。したがって、同じ福祉の仕事を目的とした絆、チーム作り、仲間作りが虐待防止に大きく繋がり、その媒介になるものがカンファレンスであると思う。

2 選ぼうとしても選ぶ対象がないといった構造的な問題が大きいのでは？（事務長 長谷川）

近隣の施設でこのような事件が発覚したことは、とても残念で、起こってはならないことだと思います。

利用者やご家族の気持ちを思うと胸が痛みます。また、この事件によって、「入所施設は良くない」という考えがより定着してしまうのではないかと心配です。入所施設にも様々な課題があるとは思いますが、現時点で、記事となった施設で暮らしているような重度の障害のある方を受け入れることができる施設がすぐに見つかると思えません。このような事件が起こる原因は、様々あると思いますが、この記事の家族の言葉に「どの施設にも入れず…ここだけが迎え入れてくれた」とあるように、利用者や家族が行きたいところへ行けない、選ぶとしても選ぶ対象がないといった構造的な問題が大ききように思えました。このため、家族も何も言えないという状況の中で、我が子への暴力をも甘んじなければならぬのかと思うと悔しい思いです。地域の中にたくさん楽しく暮らせる場所があれば、このような悲しい事件も起こりえないのではないかと思います。重度の障害を持っていても、人間らしくゆたかに暮らせる環境を誰の責任において作っていくのか、という思いをより強く持ちました。もちろん、直接支援に関わる職員の資質、障害への理解、支援技術の向上は大切なことですが、特に施設を管理する者の理念や考え方が、施設の質に大きく関わってくると思います。サンガーデンにおいても、入所施設という閉鎖的な中においては、自分たちのやっていることが見えなくなりやすいので、常に利用者の立場に立って、これでよいのか問いかけながら、学習していかなければならないと思います。

3 施設側とスタッフ同士の協力による「ゆとり」が大切支援員（施設長 豊田）

施設職員の障害者虐待、ましては、利用者のお金を無断で使い、施設建設の一部に使用していたようである。福祉という仕事は、はたからは想像しにくいと思うが、精神的、肉体的にかなり辛い仕事であるということを理解してほしい。その「辛さ」、「ハードさ」が、精神的、肉体的に、「ゆとり」を奪い、障害者に対しての虐待をエスカレートさせていったのではないと思う。だからといって、許される行為ではないが…。今後、このような事件を起こさないためにも、「ゆとり」が持てるような施設側、スタッフ同士の協力が今一層必要になってくると思う。当施設も、障害者虐待を行わないように、職員の意識をしっかりと持って働きたいと思う。

4 行動規範を常に頭の中に入れながら関わりたい（施設長 小柳）

私はこの事件をテレビの報道で知り、初めは耳を疑い、また、福岡県内、ましては近くの施設で起こってしまった事件に、私の中は、とても複雑です。このニュースや新聞を読み、「他の施設もこのようなことをしているのではないか？」など感じた人達がきっと大勢いると思います。「していない」と口では言っても信じてもらえるのか、施設で働くスタッフが同じように世間から見られるのではないかと危惧しています。施設が選べるようになったとはいえ、逆の立場に立てば、他の施設に変わりたくても行くところがない、このまま我慢するしかない、など弱い立場の利用者や保護者の気持ちを考えると残念でなりません。私は、二度とこのような事件が起きないように行政を含め考えていかなければいけないと思います。そして、施設は開放的で、地域の方々と交流を深めることが大事だと私は思います。現場にいる私は、この事件を他の施設で起こったことと、他人事で終わらせず、行動規範を常に頭の中に入れながら、関わりたいと思います。

5 施設において、スーパーバイザーが必要であると思う（センター長 丹下）

密室である施設の中で、誰がどうして虐待を行ったのか。今になっては誰にも正確にはわからないであろう。本人は、虐待を行っていたという意識さえなかったかもしれない。それくらい日常の支援は、毎日の繰り返しであり、日々流されているところが多いように思える。しかも、相手が重度の知的障害で、自分の意思を伝えることが困難なケースであればなおさらである。体罰的な虐待には背筋が寒くなったが、日常、悪ふざけのように行われていたであろうものには、人間としての倫理、価値観を疑う。職員間の馴れ合いがここまでの事態を引き起こしたとは想像できるが、ここまでエスカレートしていく前に誰か一人でも「おかしい」と感じなかったのだろうか。怒りを感じなかったのだろうか。不思議が感じられた。そこまで職員は精神的に疲れていたのかもしれない。私は、20年くらい前になるが、同じような経験をしたことがある。入所者が、食事をとるのが遅い、好き嫌が多い、という理由で一職員が勝手に判断し、本人の目の前で、犬に食事を与えてしまった。入所者は、傷つき涙を流した。重度の身体、知的障害のある大人の方であった。当の職員は、「障害のあるなしに関わらず、躰でやった。」とまことしやかに言った。しかし、それを見た他の職員は、黙っていなかった。「許せることではない」、「会議を開いて話し合おう」、みんなが声を上げた。会議は、人間性を否定し、非難するものではなく、不当な行為そのものについて考え、職員の勉強不足を指摘するものであった。その後、前向きな勉強会が何度も行われ、人として、職員として、責任ある言動を皆で目指していった。その時、確認しあったことは、一人で判断しないこと、一人で悩まないことである。簡単なことのように思えるが、それがなかなか難しい。そのときも感じたが、今でも施設において、スーパーバイザーが必要であると思う。専門職の意見を聞く機会があれば、現場の職員ももっと自信を持った支援ができるのではないだろうか。障害が、2次、3次障害になる前のアドバイスが欲しいものである。一生懸命であるがゆえに、報われないとき、思い通りにならないときにイライラし、虐待など、不適切な行為が起こるのかもしれない。私は、これからも福祉職についたころの熱き思いを忘れずに、冷静な判断力と広い視野、新しい技術の習得を心がけていきたいと改めて感じた。一人の力では何も変わらないが、一人ひとりが意識を変えることがスタートになるのではないだろうか。

6 障害者を正しく理解し、接し方などの技術を高めるための勉強が大切（主任支援員 参川）

虐待が起きるには様々な要因が重なったからだとは思いますが。その要因のうちのひとつが正しい知識がなかったからではないでしょうか。障害者一人ひとりを正しく理解し、どのように接したらよいかというような知識を正しく理解することにより、支援者として適切な行動がとれるようになると思います。私達支援者は、見識を深め、技術を高めるために、日常業務に携わるだけではなく、勉強していかなければならないと思います。

7 相手を十分に理解する努力が必要（看護師 倭）

虐待は、施設に限ったことではないと思います。多かれ少なかれ、どこでもありうることで、一人ひとりのモラルの問題です。また、受け身の側を十分に理解するように努力も必要だと思います。更生施設の入居者は、コミュニケーションが困難で、100%理解することは難しいですが、努力は怠るまいと思っています。

8 「慣れ」という麻痺した感覚ほど怖いものはない（栄養士 平山）

つらいというか、悲しいというか、気の重くなる新聞記事の連続で、とても残念なことです。人権について施設職員はもちろん、社会一般に浸透してきていると思っているのは、単なる思いこみだったのでしょうか。人権擁護のシステムは整っているのに、それをうまく活用できない方が多いのはどこでも同じで、もしかしたらこういうことは、氷山の一角なのかもしれない。頼りにすべきスタッフを頼ることができない。悲しいことですね。大げさに言えば、そこで生活されている入所者の方々の皆さん、何を頼りにされているのでしょうか。いくら再発防止策を設けても、そこには必ず人間対人間のつきあいがある。最終的には、施設従事者として勤務する者のモラルであり、人間性を問われるのではないかと思う。日々生活を共にすることで、感覚的に薄れていくいろいろな感情。「慣れ」という麻痺した感覚ほど怖いものはない。『親しき仲にも礼儀あり』自分に対する戒めの言葉とし、気をつけていかねばと思う。また、苦情処理委員会などの利用も有効に活用できるようなサポートをしっかりと行っていかないことには、ただの絵に描いた餅に過ぎないのではないか。

9 重い障害でも理解し、受容して接していくことが第一の基本（栄養士 森川）

この度の近隣施設の虐待事件につきましては、職員たちの卑劣極まりない虐待行為や、ずさんな日常生活のサービスのために苦しんだ入所者の皆さんのことを思うと、悲しみと共に、暴力や自分たちの怠慢さを勝手な理由で正当化し、当たり前のように不当行為を行っていた施設運営に対して、限りない憤りを感じております。知的障害を持った人々にサービスを提供する者においては、障害を持った人々に対して、「障害者」という枠にはめた接し方をするのではなく、一人の人間として尊厳し、どのような重い障害でも理解し、受容して接していくことが第一の基本だと思います。また、入所施設に勤務する者として、利用者の日常生活を守ることはもちろんですが、豊かで楽しい日々を過ごしてもらうために、個人を大切にサービスを提供していくことも大切だと思います。この事件をきっかけに、あらためて障害者の生活支援のプロの一人であるということ、地域福祉に携わるプロの一人であることを心に刻み、倫理をもって職務に励んでいきたいと思っています。

10 施設全体で十分な支援体制がとれることも重要な課題（コーディネーター 井手口）

ごく身近な施設での大変ショックな出来事に、とても他人事とは思えない衝撃を受けた。私達施設職員は、日々の利用者との関わりの中で、見えなくなっているものがあるのではないかと思う。これを機に、無意識の行動も含め、もう一度自分自身の行動、施設全体のあり方を見直す必要があると思った。しかし、これまでもあらゆるところで障害者の虐待が問題視されてきたにも関わらず、一向になくならないのは何故であろうか。特に自己主張の困難な障害の重たい人々に対する虐待が目立つように思う。実際、重度の人たちとのコミュニケーションは大変難しく、彼らを理解し、適切に関わっていくには、かなりの専門知識が必要になってくる。また、施設全体で、十分な支援体制がとれることも重要な課題であろう。そう考えると、現状の制度自体の問題も大きいと言える。今、私達がすべきことは、施設全体の見直しとともに、スタッフ、一人ひとりが自分の言動を振り返り、もっと勉強し、専門知識を身につけること。そして、いかなる場合も障害のある人たちの人権は無視してはならない。

1 1 虐待の背景にもスポットを当て、しっかりと受けとめる必要がある（ジョブコーチ 舟津）

今回の紙面を騒がしている「虐待」の記事は、他人事ではなく、当法人も危機感を持ち、これからの当法人のあり方や方向性を再度確認していかなければならないものだと感じました。当法人においては、「虐待」はないにしろ、現在の受入体制や環境面から考えると、起こりうる可能性はあるのではないかと思います。「虐待」の本質は、施設の体制も背景にあるように思います。紙面は、「虐待」の内容ばかりがクローズアップされ、「原因」や「背景」が記載されることは少なく残念な気持ちです。私達は、虐待の事実は実直にうけとめ、私達なりに考えていくことはもちろんですが、その背景にもスポットを当て、しっかりと受けとめる必要があると思います。現在、来年度に向けて取り組んでいる事業部体系の見直しは、個々人のスキルアップやゆとりを持って取り組める環境作りだと感じ、期待しています。これが質の向上につながり、そして、虐待を防ぐ対策もになることであると感じています。職員一体となり、防いでいく、発生しないように考えていく、常に意識し、心がけていくことが、今私達に出来ること、役目だと痛感しています。

1 2 大変気の毒なのは、お客様はどちらか分からないという悲しい事実（就業支援員 松尾）

記事による虐待内容を見て、とても心ある人間ができることとは思えない。驚いたのは、わずか26人の職員の中に複数の少なくとも5人という2割もの職員が虐待に加担していることである。曲がりなりにも福祉介護の道を歩む人間が、このような行為ができることが信じられない。また、憤りを感じるのは、何も言えない重度障害者をターゲットにしていること、事故発覚時に他の障害者が加害者と虚偽報告し、保護者に謝罪までさせていること、口止めをしていること、苦しむ姿を見て笑って喜ぶ、面白半分でやったということ、などなど悪事は数知れない。大変気の毒なのは、保護者の弱みで、利用者が職員に傷つけられていることを知りながら、他に面倒を見てもらえる施設がないために、悔しいけれど何も言えない泣き寝入り、お客様はどちらか分からないという悲しい事実である。虐待が悪いこととは誰しもがわかっていることだと思う。最初は言うことを聞かない利用者に腹を立て、つい手を出したことが発端だろうと思う。それがいつの間にか誰も止めない、施設側もきちんと対処しない、利用者側にもバレない、何も言われないなどで、どんどんエスカレートし、今回のような異様としか思えない複数の職員が面白半分、ストレス発散かのごとく虐待を繰り返すようになり、これが常態化してきたものとする。このような実態をなくすには、まず障害者を理解することにあり、強い福祉の心、早期対処、誰もが許さないという決意が大切であると思う。

1 3 ひとりのおとなとして接しなくてはならないと思います（事務員 幸田）

この事件を知ったのは、車の中で何となくラジオを聞いていたときでした。「知的障害者施設で…」という声を聞いて思わずボリュームを大きくして、聞いていると信じられない言葉が耳に入ってきました。施設職員が入所者に対して虐待を行っていたなんてショックでした。しかも、コミュニケーションのしづらい重度の方ばかり。重度の方とコミュニケーションをとるのは、とても難しく専門知識が必要と思いますが、相手の気持ちを理解しようと思い、ひとりのおとなとして接しなくてはならないと思います。この事件が発覚したことで、私達施設職員は、改めて意識を見直さなければいけないと思います。そして、虐待が無くなることを願います。

1 4 施設の窮状を聞き対策を一緒に考える機関は存在しなかったのか（支援員 花田）

虐待の事実が新聞に掲載されたとおりに許されないことだと思う。指導という名目で、実際にはスタッフの感情や都合で暴力が横行したとすれば、施設側に弁解の余地はないと思う。施設が、内部の窮状を訴えることはできなかったのか、訴えを聞き対策を一緒に考える機関は存在しなかったのか。私は、サービスの審査機関の存在が必要だと思う。ともすれば自己目的化し、自讃的評価に陥りがちな面に対して、公平かつ公正に広い視野で意見や対処方法などを提供する機関の創設が不可欠だと思う。

1 5 当施設で考えると、まずあり得ない話だろう（支援員 戸次）

近隣の施設の出来事を深く受けとめなければいけないと思うが、当施設で考えると、まずあり得ない話だろうと思う。当施設職員は、少なからずとも、利用者に愛情を持って接していると思う。もしかしたら、愛情がありすぎたために、体罰等に発展していくのかも知れない。今回の事件では、新聞等を見る限り、愛情のかけらも見られない。利用者が苦しむのを見て笑ったり、食べるのが遅いからと言って片付けたりと、非人道的なことばかり行われている。今後、新聞記事のようなことが発生しないようにするためには、どうすべきか。障害者に接する人達自身から考えていくべきではないでしょうか。

1 6 勘違いしてはならない。障害者は弱者ではなく、同じ人間である（支援員 菅野）

入所施設の虐待が発覚し、守るべき立場の者が何故虐待に至ってしまったのか、記事を読むと、「人間扱いしていなかった」という発言が目につく。入所施設は、閉鎖的なところが多く、サンガーデンのように家庭的ではない。この閉鎖的環境が虐待を許す引き金になったとも考えられる。誰にも見られないから何をやってもいいと。外部の誰もが気軽に立ち寄れ、地域に開かれた施設であるならば、虐待など起こるのであろうか。きっと無縁の施設である。無縁の施設、イコール職員が障害を理解し、良い支援ができており、入所者は生き生きと生活している。それが当然でなければならぬ。その基本ができていない障害者施設は、施設を名乗る資格はないのではないだろうか。我々は、勘違いしてはならない。障害者は弱者ではなく、同じ人間である。

1 7 大切なのは、いかに利用者が過ごしやすい環境を作るかを考えていくこと（支援員 宗和）

まず、一連のニュースを知り、虐待を黙視し、隠ぺいする施設側の同種別の施設職員として悲しくなりました。虐待に気付いても「退所」が怖くて言うに言えなかった被害者の家族のむなしさは計り知れないものだと思います。「なぜ、このような事件が発生したのか」、「なぜ、発生当初に問題提起されなかったのか」、「どうして今まで施設ぐるみで隠ぺいしてきたのか」私には不思議でなりません。そして、今後、このようなことが二度と起きないように私達施設職員がしなければならぬのは、自らのレベルを上げ、いかに利用者が過ごしやすい環境を作るかを考えていくことだと思います。

1 8 背景に、職員が利用者を見下す意識や雰囲気は少なからずあったのでは（支援員 吉田）

今回の事件が発覚して、驚き残念だという気持ちになるとともに、自分が利用者の目にどう映っているのだろうと考えさせられた。施設職員と利用者は対等だと言われているが、この事件の背景には、職員が利用者を見下す意識や雰囲気は少なからずあったのではないだろうか。そして私自身を省みると、利用者が意見を対等に言える存在には未だなれていないと思う。この問題は、私達職員の意識と利用者の意識を変えていく必要があると思う。また、今回は、「パニックを起こした利用者への対応の仕方が分からなかった」という職員の声もあがっており、職員の行動障害に対する知識が不足していたようだ。私達は、日々の業務に追われ、学ぶことをおろそかにしがちである。その積み重ねがサービスの低下、ひいては虐待等へつながっていくとの意識を持ち、学ぶ姿勢を持ち続けたいと思う。

19 コミュニケーションのとりづらい利用者は守っていかなければいけない（支援員 中益）

今回の記事を読み、同じ福祉職に携わる者として、大変残念に思うとともに、「どうしてこんなことになったのだろうか」と考えました。施設の日常生活の中で、援助関係は、「管理－被管理」の中で行われる面を持ちがちで、このような事件になる可能性は至る所にあると思います。利用者は、自分の権利を守ることが困難なので、人間としてのプライドを踏みにじられることがあります。特に、重度の障害を持つコミュニケーションのとりづらい利用者は守っていかなければいけないと思います。そのためにも、我々施設職員は、日頃より、業務に追われることなく、障害に対しての勉強をして、実践に生かしていく努力をしていきたいと思ひます。

20 明日も来たいと思ってもらえるよう支援しよう（支援員 穴井）

新聞記事を読み、何とも切ない気持ちになった。同じ知的障害者の方に接する者として、一番に心がけなければいけないのは、利用者の気持ちを大切にすることではないかと思う。このことは、いつも思っているが、本当に実践しているのか、自問自答の毎日である。私が、常日頃、心がけているのは、ゆたかの里に通っている方が明日も来たいと思ってもらえるよう支援しようということだ。この記事を読み、改めて自分の支援を振り返りながら、利用者の方の気持ちを大切にできる支援を心がけたいと思った。

21 利用者であり、お客様である人に平気で虐待することは許されない（支援員 友廣）

私達の身近でこういった虐待が行われていることに対してとても残念に思ひます。近年の社会福祉では、措置制度から支援費制度へ移行して施設のサービスが重要となっていく中、施設でサービスの向上につながるよう様々な取り組みを模索して、努力していかなくてははいけません。利用者であり、お客様である人に平気で虐待することは許されない行為です。その人の障害特性に合わせた援助の仕方、コミュニケーションのとり方など、職員の自覚ある行動が求められます。相手にあたたかい思いやりを持ちながら、利用者へ公平なサービスを提供していくことが私達の責務です。当然、障害を持った方々に対しても、一人の人間として接することが重要でひます。

22 ”仲の良さ”で注意しあえなかったことは、私達も気をつけなければ（支援員 山本）

同業種の友人が集まると、必ず利用者自慢が始まる。このような愛すべき性格の利用者がいると友人に伝えると、友人も負けじと力説してくる。皆、利用者が大好きであり、自分の仕事に誇りを持っている。きっと今回、事件になった施設でも、職員はそのような気持ちを持ち、仕事に従事していたことだと思う。一部の職員がやっていたことだとしても、”仲の良さ”で注意しあえなかったことは、私達も気をつけなければいけないように思う。知的障害には定義がない。個人差も大きい。私自身、うちの利用者と接していると新たな一面を知ることもある。また、あまり接することのない利用者の対応に、戸惑いを覚えてしまう。「療育の専門的な知識を身に付けなければ…」と元職員が証言していることも分かる。胸を張って専門知識と言えるものを持っている自信がないからである。今、自分が行っていることが療育と呼べるのか。暗中模索の日々である。

2 3 障害者に対して、社会の目がまだまだ冷たいのをいろんな場所で感じる（支援員 佐藤）

新聞でのトップ記事「虐待」という文字が目飛び込み、とても衝撃を受けた。記事を読み進めるたびに心が痛んだ。利用者に対する暴力や嫌がらせの数々…。「どうしてこんなことを…」と思った。私達施設スタッフは、何より利用者のことを考え、その立場に立って支援していかなければならないはずなのにと考えた。それが一番大切なことなのではないか。障害者に対して、社会の目がまだまだ冷たいのをショートステイ等でいろんな場所に行った際に感じる時がある。私達施設のスタッフのように、障害者も社会で豊かでありよい生活をと、日々努力しているところもたくさんあると思う。しかし、世間には、今回のような事件が大きく取り上げられ、「施設」というイメージが悪い方に誤解されてしまわないだろうかと気にかかってしまう。私も現場に携わる者として、自分自身の姿勢を振り返り、利用者の立場に立って支援していくことを忘れずに、日々尽力していきたいと思う。

2 4 本人の意思をしっかりと受けとめ、受容することが大切ではないか（支援員 天野）

この記事を読ませていただきましたが、同じ知的障害者を支援する者として、大変悲しい出来事と共にショックです。食事が遅いというだけで叩いたり、意思疎通が困難な利用者を暴行したり、最近では幼児虐待のニュースも増え、我慢が出来ない、叩いたら分かってくれるだろうと浅い考えを持つ大人たちが増えつつあります。私達サンガーデンのスタッフは、常に利用者のニーズに応える、利用者の意思を尊重して活動をしているので、確かに食事の遅い利用者もいます。最初は、正直、「早く食べてくれないかな」と少しイライラしたこともありましたが、利用者には、「どうする？まだ食べれる？」と尋ねると、「うん食べる」と応えてくれて、信頼関係も厚くなってきました。まだまだ勉強不足で至らないところだらけですが、利用者が何をどうしたいのか、本人の意思をしっかりと受けとめてあげる、受容することが大切ではないかと思えます。利用者の人たちに出会ってわかったことは、やはりひとりの人間であるということでした。私自身の生き方に光を与えてくれた利用者の皆さんに感謝したいくらいです。これからもよろしくお願ひします。

2 5 しゃべれない人が対象というのは、どうしても許されなく心が痛い（支援員 安永）

私は、まず初めにこの事件の記事を読んで、同じ職種についていることが、少し恐くなりました。施設内のことなので、明るみには出ないことだが、とても残念な気持ちと、どうしてこんなことをする人がいるの

だろうという気持ちでいっぱいです。言葉がしゃべれない人を対象として行うということが、どうしても許されなく心が痛いです。きっと、この虐待を受けた利用者の心の傷はとても大きなものだと思います。それと同時に、家族のことも気になるところではあります。もし、自分の子どもが、アザや切り傷など付けて帰ってくると「なぜだろう」という疑問が浮かびます。また、施設に対しての不信感が沸いてくるのではないかと思います。私達も、一現場のスタッフとして、この事件を重く受けとめ、これからも障害を持った方と接していきたいと思います。

2 6 施設は、本人が安心して生活でき、家族も安心して預けられる場であるべき（支援員 成重）

「虐待」という言葉を調べてみると、「力の強い者が、抵抗する力がないか極めて弱い者に対して、身体的あるいは精神的な攻撃を加えること」とある。虐待の内容としては、直接的な身体的虐待、精神的虐待、性的虐待の他、ネグレクト（無視：食事を与えない、病気になっても病院に連れて行かない等）である。虐待はどこで行われているのかわかりにくいものだと感じた。青アザがあったり等の身体的虐待というのは少しはわかりやすいものの、それ以外の身体的虐待や無視をしたり等の精神的虐待は、誰かが見ていないとわからないものである。しかし、人が見ていないとき、主に2人の時にあっているのではないと思う。利用者の人権を守るべき施設職員が、このようなことをしていいのだろうか…とショックを受けた反面、少し不安になってしまった。というのも、何かしている時などに、利用者から話しかけられ、「ちょっと待ってね、後からね」と言ったことや聞いたことがある。これも虐待なのだろうか？もしかしたら、その利用者は、「無視された…」と思っていたかもしれない。であれば虐待であるかもしれないと思ったからである。このようなことを考えると、見えない虐待は多いように思われる。施設というのは、本人が安心して生活や利用ができ、また、家族も安心して預けられる場でないといけないはずなのに、新聞には、「施設内で何が行われているよと、従うしかない」、「文句など言えない」と両親の声が載っている。やはり、誰も人権や権利があり、それを守るのが家族や施設でないといけないと改めて感じた。この両親の声は、私にはとても悲しく聞こえた。ゆたかの里、サンガーデン利用者や保護者から、このような悲しい声がでないように、いろいろな研修会に参加し、もっと多くの知識を身につけ、安心できる施設づくりを目指していきたいと思う。

2 7 当施設でも、障害者との関わり方について、考える必要があるのでは（支援員 井上）

施設の現場でこのような事態が発生しないためには、利用者支援員が本音で付き合うことが大切だと思います。利用者の行動に対して、良いことは良いと教え、してはいけないことはいけないと、きちんと伝える。そのためには、指導をすることも必要だと思います。利用者のニーズを最優先すると、時には、支援員個人の受け入れられる範囲を超えてしまい、逃げ場なくなることがあると思います。そういう人達が今回のような事件を起こすのかもしれませんが、支援員というのは、とても理想的な立場ですが、必要なときに指導ができないことで、利用者支援員の本音のつきあいができないときがあります。当施設でも、同じことが起きないためにも、障害者との関わり方について、考える必要があるのではないのでしょうか。

2 8 設全体で利用者の立場に立って支援を行うことに取り組んでいかねば（支援員 石津）

私は、この記事を読んだとき、同業者としてとてもショックでした。この件をふまえて、私は普段の支援を

思い返してみました。忙しいときなど、特に、利用者の言うことを適当に受け流したりしていることがあります。この行為も利用者にストレスを与えていると思います。このことを私自身見直し、施設全体で「利用者の立場に立って支援を行う」ということに取り組んでいかなければならないと思います。

29 保護者の方たちの思いを逆手に取っての今回の事件は許すことができない（支援員 浦）

私は、この記事を読んで本当に驚かされました。記事を詳しく読んでいくにつれ、腹立たしく悲しく感じました。数名の職員が行っていたという信じられない嫌がらせや暴行の数々、本当に許せません。しかし、それよりももっと驚いたのは、施設を支えるべき施設長が、入所者に熱湯のコーヒーを無理矢理飲ませ、口や食道に約1ヶ月の重傷を負わせていたことです。保護者の方たちの思いを逆手に取ってすべて裏切った今回の事件を、私は、同じ知的障害者施設で働かせてもらっている職員として本当に許すことが出来ません。もしかしたら、このように虐待を行っている施設がまだ他にもあるのかも知れません。そういった施設の人たちが今回のこの記事を読んでなくなることを私は望みます。

30 世間の施設に対する見方も厳しくなり、福祉予算の削減につながれば…（支援員 小山）

障害者更生施設という名において、ご両親やご家族のもとから大切な子どもさんをお預かりし、社会復帰に向けて、更生活動を目的とした施設において、このような事件が起こったということは、とても悲しくなりません。ご両親やご家族のお気持ちを考えると、互いの信頼や信用関係も何もあったものではありません。障害を持ち、言葉が出ない入居者に対して、集中的に暴行虐待を加えるなど、とても言葉で言い表せない憤りを感じます。世間の施設に対する見方も厳しくなり、それが、さらに福祉予算の削減につながれば、入居者や家族に対してのサービスも、さらに低下するのではないかと心配です。私達施設職員が、社会から温かい目で認めてもらえるように努力したいと思いますし、全国の施設が失った信頼・信用を、我々施設職員が、一日でも早く取り戻したいと思います。

31 スタッフ自ら信頼関係を断つと、利用者自身のトラウマにつながる（支援員 万田）

これを読んだ率直な感想は、暴力ですべてを完結できるなら、施設の意味がないということです。「個人の意思を尊重」、それが施設のあるべき姿だと思います。同じ人間として見ていないことが虐待につながったのではないかと思います。特に、入所施設の場合は、入居者の一番近く存在であるスタッフが、家族であり、親友であると思うので、信頼関係をお互いに作り上げることがスタッフの役割だと思います。自らその関係を断つということは、利用者自身のトラウマにもつながるので、私達はそれをしてはいけないと思います。毎日、利用者に関わる中で、私も、もう一度スタッフと利用者の信頼関係の大切さを思い、毎日、どうしたら利用者が楽しく過ごせるか、どうしたらもっと仲良くなれるか、自分なりに考え、接していこうと改めて思いました。

32 外部の第三者評価の導入により、施設にプラスになる運営を（支援員 今村）

記事を読んで感じたことは、まだまだ、人権が守られていない施設での実態につくづく気付かされ、福祉

の仕事に携わる者として大変悲しく思います。自分自身を含め、支援者は常に本人当事者の立場に立ち、思いをひとつにして一緒に手を携えて共に生きていく姿勢を忘れてはならないと思います。このような悲しい事態を防ぐために、常日頃から接し方を基本とした支援の姿勢について高慢にならず、謙虚に接していく心が大切だと思います。支援スタッフが中心ではなく、利用者の方を中心に据えていくことだと感じました。利用者の方々は、サービスを受けていただく「お客様」であることを、スタッフは日々思い起こす必要があると思います。それを忘れることなく、施設で自浄作業させるためには、毎月でも、第三者評価を行って、施設をガラス張りにし、透明性を確保することがよりよい施設を築き上げていくことにつながるのではないでしょうか。人権擁護自己評価に加えて、外部の福祉オンブズマンや、匿名ボランティアからの評価により、厳しい評価であっても、施設にとってプラスになる運営を行うことが求められていると思います。私達の施設だけでなく、すべての福祉施設に言えることであり、そのような施設が社会から認められた施設になっていくと思います。法人の基本理念が今まで以上に確固となるよう、スタッフ全員が丸となって、日々研鑽を積み重ね、より質の高い福祉サービスと専門的知識の上に立った支援を行うことが社会的使命につながるのだと思います。

3 3 利用者の大事な命と人権は現場に携わる者がしっかり守っていく義務がある(支援員 安武)

今回の事件のことは、最初テレビニュースで知り、次の日、新聞を読み、こんな恐ろしいことが本当に近くの施設であったのだろうかと思いました。そして、記事を読んでいて、だんだん自分の頭の中で虐待、体罰、陰湿な嫌がらせの状況を再現し、息苦しく、背筋が寒く感じました。どうして、なんで無抵抗でコミュニケーションがしづらい重度の障害者に大きな大きな苦痛や不安、恐怖心や悲しみを与えるのか、98年開設以降、諸々の行為があったようですが、早いうちに、職員の中で勇気を出して、はっきり注意をしたり、制止したりする人が一人もいなかったのだろうか、と考えていると次から次に怒りと疑問が沸いてきます。今、私のはっきり言えることは、家族からお預かりした利用者の大事な命と人権は、風通しの悪い曇りガラスの施設じゃなく、透明のガラスで、いつでもどこの窓もドアも開閉でき、新鮮な空気や風が入る施設で、現場に携わっている者がしっかり守っていく義務があるということです。「サンガーデン」、「ゆたかの里」の「窓」は、いつも明るくオープンしています。また、オープンし続けたいいけないと思います、絶対に。

3 4 社会の中で弱い立場の障害者を守り、その生活を手助けするのが私達の仕事(支援員 許斐)

施設に従事する職員として、あってはならない「虐待」。これは、施設に限らず、学校や職場、家庭等においても絶対にあってはならないことです。体罰だけではなく、言葉の暴力も「虐待」に値すると思います。虐待をするということは、相手を一人の人間と見なしていないのではないのでしょうか。障害を持った人も、そうでない人も、それぞれに人格があり、感じる心を持ち、痛みも感じるのです。特に社会の中で弱い立場にある障害者を守り、その生活を手助けするのが私達の仕事だと思います。実際に虐待をしていなくても、側で見ていて笑っていたり、止めようとしないのは、虐待をしているのと同じことです。相手の心の痛みを知り、私達自身をもう一度振り返り、二度とこのようなことが起こらないよう、職員間で資質を高め合う必要があると思います。

3 5 社会がもっと障害を理解し受け入れていかなければいけないと思う(支援員 渡部)

障害者虐待がこんなに身近で行われていたことと、内容にショックを受け、とても残念に思いました。被害者やその家族の方の気持ちを思うと、どれだけつらく苦しかったか、かわいそうでなりません。虐待は全体にあってはいけないことだと思います。そのためには、社会がもっと障害を理解し受け入れていかなければいけないと思います。私自身も、もっと成長し、利用者の立場に立ち、気持ちを理解できるよう努力していきたいです。

36 毎日の所員さんとの生活の中で、職員は所員さんを暖かく見守っていく存在（支援員 中山）

近年、子どもたちや弱い人達に対する虐待のニュースは、後を絶つことはありません。私は、記事を読んで、驚かされるとともに、また？何故？という気持ちでいっぱいになりました。自分にとって、知的障害者の人達と接するのは初めてのことでした。でも、毎日接していくうちに、所員一人ひとりの気持ちもほんの少しずつですが、わかるようになってきました。毎日の所員さんとの生活の中で、職員は、所員さんを暖かく見守っていかねばならない存在です。所員さんが職員の言うことを聞き入れてくれなかったり、また、パニックを起こしたときにどう対処したら良いのか、難しく、分からないこともたくさんありますが、頑張りたいです。最後に、事件を機に、この施設では虐待がなくなったのかとても心配です。

37 一体、何のために施設があるのか？何のために福祉があるのか？（支援員 新次）

非常にショックでした。信じられない現実です。無抵抗の入所者さん達に暴力や嫌がらせをするなんて、同じ仕事をしている私にとっては、とても理解に苦しみます。保護者の方々や、親族の人たちのことを思ったら、心が痛くて言葉も出なくなります。暴力や嫌がらせをしたのが、職員から施設長までしたと新聞の記事を見て、すごく驚きました。一体何を考えているのかわかりません。何のために施設があるのか？何のために社会福祉があるのか？とても気持ちが収まりません。疑問だらけです。私が一番に怒りを覚えたのは、唐辛子や木酢液を与えて、それを口にした入所者さん達が吐き出したり、苦しむ姿を見て、職員が笑っていたということです。同じ人間がすることではありません。もっと、見つめ直してほしいし、もう二度とこんな卑劣なことが起きないように深く考え直して欲しいです。

38 利用者の気持ちになれば、自ずと仲良くなり、理解し合えるようになる（宿直専門員 前田）

僕がこの記事を読んで思ったことは、職員の方と利用者が理解しあえてなさすぎると感じました。熱いコーヒーを飲ませたり唐辛子を食べさせたり、全然利用者のことを理解しようという気持ちがないんだと思いました。僕がもし、1号館でこんなことばかりしていたら、この部屋は恐怖でいっぱいの部屋になり、みんな、ギスギスした関係になっていたのではないかと思います。利用者の気持ちになって、今何がしたいのか、何をしてほしいのかを考えていけば、自ずと仲良くなり、理解し合えるようになると思います。これからも利用者の方に「サンガーデンに泊まりたい」と言ってもらえるように頑張っていこうと思いました。

39 今後は、療育面での専門的な知識を身につけて仕事をさせていただきたい（宿直専門員 佐々木）

最初に思ったことは、「とても信じられない」でした。やはり入所者の方達と信頼関係ができていなかったのでしょうか。私は、宿直専門に仕事をしているので、母親のような気持ちで接していますが、どう接したらいいのか対応に困るときがあります。今後は、私も、療育面での専門的な知識を身につけて仕事をさせていただきたいと思います。

4 0 せっかく楽しく生活できる場所に来たのに、驚いているでしょう（宿直専門員 藤澤）

この新聞を見て、こういうことが現実には起こっているとは思っていませんでした。とてもビックリしています。大変不幸なことです。せっかく楽しく生活できる場所に来たのに、利用者の人たちも驚いているでしょう。サンガーデンに来て10ヶ月あまりですが、利用者の人たちみんながとても大好きです。毎日毎日楽しく過ごしています。これからも、このようなことのないよう、自分自身考えて働かせて頂きたいと思っています。

4 1 利用者を助けるべき立場なのに、決して許される行為ではない（宿直専門員 葛原）

初めに私がこの記事を読んで、一番に思ったことは、入所者の方も職員も同じ命を持っているということ。職員は、特別な人じゃなく、自分と同じ命を持った利用者を助けていかなければならない立場なのに、決して許される行為ではない。もし、自分が逆の立場で考えたらどう思うか、当然、答えは、みんな同じだと思う。「みんなされたくない」と返事が返ってくるだろう。自分がされたときのことを考えてほしい。されるときに痛さや苦しさを考えてほしい。また、利用者さんだけでなく、家族の気持ちも考えなければならない。たとえ一度でも、このような経験をしたら、また別の施設に行っても、不安な気持ちになる。本人だけでなく、その家族も苦しめることになる。私も福祉の仕事をしていますが、自分も決して人のことと思わず、この仕事をやっていきたいと思っています。

4 2 話せないがゆえのストレスを少しでも緩和できればと思う（介助員 渡辺）

残念なことです。しかも重い障害のある方が、ターゲットになっていたとは…。私は、いつも決まった時間に、同じ方々の介助をさせていただいているのですが、会話が出来る方はある程度自分の要求・要望を言われ、わかりやすい面もあるのですが、会話が苦手な方は特に、コミュニケーションがとれてるだろうか気になります。食欲はどんなだろうか、表情はいつもと変わらないだろうか。話せないがゆえのストレスを少しでも緩和できればと思いますが、私にはこの点がこの仕事に携わっての最大の課題でもあります。何でもやってやれないことはないの精神で今までどおり心（気持ち）でぶつかってゆけば、きっと道は開ける。そう思って取り組んでいきたいと思っています。

4 3 危険なとき、パニックがあったときこそ、介助を必要とされる方々なのに（介助員 清水）

あってはならない行為が新聞でさかんに書き立てられている世の中で、知的障害の方にまで、そんなにもひどい虐待があったかと心が震えました。危険なとき、パニックがあったとき等、介助を必要とされる方々なのに、どうしてこんなことを…と心が痛みました。そんなことする前に、何らかの方法がいくつもあった

と思います。コーヒーが嫌いになるようにと何杯も熱いコーヒーを飲ませたと書いてありましたが、そんなに熱いコーヒーは味がなかったのではないのでしょうか。何の意味もないと思います。しかも熱湯でやけどをするようなコーヒーなんて…。本人が好きなものって、そうたくさんはないのでは。それが唯一の楽しみならばかわいそうでなりません。健常者と同じと思います。人間扱いしていないと思います。ゆたかの里の方々には、皆様考えられない気がします。

4 4 今も、向こうの方から、”おばちゃん”と呼ぶ声が聞こえるようで楽しみ（介助員 天野）

記事を見て、私達と同じ種別の施設での出来事で残念で、悔しい思いです。虐待は、あつてはならないことですね。私達も一生懸命利用者との仲で戦っています。いろいろとあろうかと思ひ、また、無いと言えは嘘になります。施設の中で、施設長以下、スタッフみんな頑張っています。利用者もとても魅力的です。保護者の方々も一生懸命の姿が見えます。虐待は、「ゆたか」では絶対ありえないことだと私は思いますし、誇りを持って言えます。今後も、皆様、一生懸命利用者と共に、明るく楽しい日々を暮らしていくよう頑張っていくことと思います。今も、向こうの方から、”おばちゃん”と呼ぶ声が聞こえるようで楽しみです。

4 5 コミュニケーションが全く取られていない恐ろしい状況（介助員 小林）

あまりにもひどすぎると思ひました。こんな状況の施設でも、その中でしか暮らすことのできない障害者の方たちが、かわいそうです。コミュニケーションが全く取られていない恐ろしい状況だと思ひます。「サンガーデン鞍手」では、決してあり得ないことだと思ひました。皆さん、入所者の方を理解し、同じ一人の人間として対応し、一人ひとりを大切にしています。私自身、仕事が大変な時もありますが、サンガーデンのこんな姿勢があるので喜んで働けるのだと思ひます。これからも「スタッフ心構え5原則」と「スタッフ行動規範30ヶ条」を守り、行動したいと思ひます。小さなことでもそれが崩れると、このような問題行動が起こってくると思ひます。

4 6 無抵抗なだけに絶対に虐待などあつてはならないこと（介助員 中村）

新聞の記事！やはり私もこの仕事に係わらせていただいているので、朝一番に目につきました。驚きました。とんでもないことです。サンガーデン鞍手では絶対に考えられないことです。皆優しく、利用者さん個人個人を尊重して接していると思ひます。誰も人間として幸せになる権利を持ってこの世に生を受けているのです。無抵抗なだけに絶対に虐待などあつてはならないことです。利用者さんたちの純粋さから教えられることも多々あります。私は毎日毎日が勉強だと思ひて皆さんが幸せに楽しく過ごせるよう、そして一人ひとりの人権を尊重しながら接していきたいと思ひます。

4 7 施設は、障害者の人たちを保護し基本的な生活習慣を身につける場所（調理員 津野）

記事を読んで、施設長自ら虐待を行っていたことに驚いた。虐待というのは、こういう施設だけに限らず、あらゆるところで多く聞く。例えば、家庭内であつたり、学校、幼稚園、塾や職場等である。最近、子どもがよくキレると言われているが、子どものお手本となるべく、大人までも、キレている。時代の流れと共に

に、本来の人間らしい思いやりややさしさ、人の立場に立って考えられる心等が失われてきていると思う。施設は、障害者の人たちを保護し、基本的生活習慣を身につけさせるところなのに、こういう状態では、一体誰が守ってやればいいのかと思う。保護者の方も不安だと思う。

4 8 重度の障害者の行き場のなさを改めて考えさせられた（調理員 清永）

ひどいと言いたいような事件ですが、これが障害者を取り巻く現実なのかなとも思いました。被害を受けた人や、その家族の心情を思うと辛いし、ここしか受け入れてくれなかった現実を考えると、重度の障害者の行き場のなさを改めて考えさせられました。また、施設長自身が虐待と思われるような行動を取っているところを見ると、根底に障害者蔑視の感情があり、その思想が知らず知らずのうちに職員に伝わっているような感じがします。職員同士で注意を促すことができない雰囲気というものにも、問題があるような気がします。今後、このような事件を繰り返さないようにするには、「相手を尊重する、相手の立場になって考える、自分がされて嫌なことは他人にしない」という、基本的なことを守り、忘れないようにしていくしかないのではないかと、私は考えます。

4 9 障害者と接するには根気と愛情が必要（調理員 塩川）

こんなむごいことが施設内で行われていたとは、かなりショックです。なぜ、職員がこんな行動をとっていたのかが理解できません。自分の仕事に対する意識が欠けていたのでしょうか。施設の仕事に就く人ではなかったんですね。私は調理員ですが、障害者と接するには根気と愛情が必要なんじゃないかなーと思います。正直まだまだどう接して良いのかわからないことが多いですが、間違っても虐待しようとか思ったことは一度もありません。

5 0 施設は、職員や家族ではなく障害を持った人たちのための存在（調理員 安永）

記事を読んで、すごく悲しく思いました。施設ぐるみの虐待、それがわかっていて、何も言えない親たち。入所者の方たちと直接関わることの少ない私には、障害を持った人たちと深く関わりを持ち、支援されている職員やご家族の方の本当の大変さはわかりません。でも、施設は支援する職員や家族のための施設ではなく、障害を持った人たちのための施設だと思います。

5 1 どうして専門的に勉強してきた人たちが…（調理員 神谷）

この記事を読み、どうして専門的に勉強してきた人たちが…と思いました。障害を持っている人達のことは十分に理解し、その人達を守る立場の人達が、虐待をしていたことは、とても残念に思います。また、周りの職員の人達も、何も言えなかったとのこと。これは、「自分には関係ない」ということではなく、施設ぐるみの犯罪だと思います。調理員の仕事をしても、スタッフの方やご家族の方のご苦勞は、大変だと思います。虐待をする人、それを注意出来ない人、何がそこまで追い込ませているのかは、私にはわかりませんが、私も、「食事を作る」ということだけではなく、もっと学び、もっと知識を身につけ、理解していけたらと思います。このような事件が二度とないように。

5 2 障害者に関わる職員や家族の方は「大変」だと思います。が…（調理員 古田）

以前からこのような事件が現実に行っていることをテレビや新聞で知っていました。なんてひどいことをするんだろう、弱い者いじめじゃないかと腹が立つ思いでしたが、今は少し考え方や見方が変わりました。職場で毎日障害者の方と一緒に過ごしていたら、事件が起きた理由が少しだけ理解できます。障害者に関わる職員や家族の方は「大変」だと思います。虐待というのも、どこまでが虐待なのか？自分自身はやっていないか反省し考えました。今後このような事件が発生しないように皆さんと勉強していきたいと思います。

5 3 忙しさのあまり、心の余裕がなくなってしまったのでしょうか（調理員 森安）

今までに知的障害者への虐待の記事などは、新聞で読んだことはあるが、今回の事件は、今までになく特にひどい事件だと思う。しかも、長期にわたって虐待を続けていたというが、その間の被害者の人達やご両親のことを考えるととてもやりきれない。しかも、施設長も虐待とは信じられない。なぜ、施設長ともあろう人が今回のような行動を取ってしまったのか。忙しさのあまり、心の余裕がなくなってしまったのでしょうか。いずれにしろ、どのような理由があってもこのような虐待や暴力は決して許されないことです。これからは、二度とこういう事件が起こらないように一人ひとりに余裕を持って利用者の方達に接していけたら良いのではないのでしょうか。

5 4 この仕事に就く以上、責任を持って自覚するべき（運転手 千手）

親御さんは、子どもさんのことを本当に可愛いと思っておられると思います。障害者ゆえに虐待などの扱いを受けるというのは、決して許されるものではありません。発覚しなければ、この先どうなっていたのかと思うと、怖いものです。障害者一人ひとり、どこか良いところがあります。今、福祉社会でこの仕事に就いている人が多い中、本当に心より接している、そういう方はどれだけいるのでしょうか。この仕事に就く以上、責任を持って自覚するべきだと思います。職員一人ひとりが、入所者の皆さんのおかげで自分たちの生活が成り立っていると、いつも感謝すべきであって、体罰なんてとんでもない話しです。言い逃れは通じません。お互い黙認はせず、何かあれば必ず報告するべきであり、早いうちに対処すれば、良い結果が出るはずです。大変な仕事ゆえ、小さいところまで気を配り、一人の人格を持ってやっていけば、こういうことは起こらないはず。福祉の仕事に関わるものとして、もう少し勉強が足りないというより、いい加減さに腹立たしく思います。私は、職業柄、全部に携わっていないのですが、気がついたところがあれば、お互いに話しをして、「サンガーデン鞍手」が入所の皆さんから喜んで頂ける施設であってほしいと心より思っています。皆さんのおかげで、お給料を頂いて生活できると思う気持ちがあれば、優しい心で接することができるはず。いつも家内に皆さんのおかげで働かせてもらっているのだからと言われます。大変な仕事でしょうが、優しさを持ってやれば、必ずわかるはずと言われ、そう思うようになりました。私も言葉が少ないのでできる限り努力し、やっていきます。たとえ障害があっても、ひとりの人間として扱うべきであると考えます。「なあなあ」ではいけないとつくづく思いました。

5 5 「面倒を見てやっている」という気持ちのおごりが虐待や暴力につながる（運転手 河島）

日々、送迎を通じて障害者と接している私にできることは、少しでも利用者の人達の手助けができたらと思っています。様々な場面で、自分が「この人の面倒を見てやっているんだ！」という気持ちのおごりみたいなものが出てくるときに、ついうるさく感じたり、疎ましく思ったりして、言葉や行動での虐待や暴力につながっていくのではないかと思います。今回の新聞記事には、驚きとショックを隠せませんが、当施設には、「宣誓」と「スタッフ心構え5原則」、「行動規範30ヶ条」があり、これらの基本施策をふまえて、スタッフの皆様と努力していきたいと思っています。

56 「ちょっと待て」と勇気のある人がいなかったことは残念（運転手 高宮）

「ちょっと待て」と勇気のある人がいなかったことは残念です。私には泊まり勤務がないので、はっきり分かりませんが、当施設では絶対はないと信じています。また、施設長の指導が良く、職員が一生懸命頑張っています。私も安心して送迎に努めています。人間は皆平等、差別のない明るい環境で頑張ります。

57 何事にもゆとりの気持ち、寛大さが必要（運転手 三谷）

人間生まれながらにして、皆平等と問われる中で、弱者いじめ虐待が世の新聞に載らない日がないくらいに行われています。心痛の思いです。私は、福祉の仕事に携わってまだ浅いですが、率直に申しまして、虐待の範囲（接し方）の把握が出来ません。スタッフの皆様大変と思います。仕事面で、過大労責によりストレスが虐待に移行するのではないのでしょうか。同種職業間で、対外との交流を図り、意見、経験談の会合を年に数回催し、個人の知識を少しでも高め、何事にもゆとりの気持ち、寛大さが必要と思います。管理職の方々、現場を自分の目でしっかりと見て絶大なるご指導を部下に指示され、この施設から諸問題が発生しませんことを願っています。